

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101346		
法人名	株式会社ライフ・ケア		
事業所名	グループホームまゆ		
所在地	長野市鶴賀居町115-5 (電話) 026-223-6059		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(平成20年11月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 10人, 非常勤 1人, 常勤換算	10.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	2～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円	
敷金	有( ) 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2	要介護2	1		
要介護3	9	要介護4	6		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・愛和病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には消防署、市役所など公的機関が点在し、通りから一步入った静かな住宅街にホームがある。1階はデイサービスと事務所、2、3階がホームとなっている。街並みが一望でき、居間もクリスマス前で煌びやかではないが飾りつけが行なわれている。幼稚園児が来訪して可愛い賛美歌の歌を楽しみ、2ユニット合同でのクリスマス会が行なわれた。「街中のホーム」という雰囲気醸しだしており、職員が入居者と明るく接する姿も見られた。隣接地に同じ法人が計画している地域密着型特定施設として高齢者専用賃貸住宅(29床)が21年8月にオープン予定である。グループホーム等と共に地域の介護の拠点という役割が更に広がり、行政や地域とのかかわりも一層深まるものと思われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し柔軟な支援を理念の一つとして日々取り組んでいる。運営推進会議は多方面からの参加を得て活発な意見交換が行なわれ、サービス向上に活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で行なわれた評価から「このようにして良かったね…」、「意外と良いのでは…」と再確認したり、「入居者の自立を妨げたのでは…」と反省する面もあった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況、防災訓練、終末医療等の話し合いが行われた。次回には防災にも関係する青年団の出席も予定している。地元の委員から「家の花が咲いたので見に来てください…」とお誘いを受けたり、「柿が沢山なったので…」とおすそ分けを頂いたこともある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年末年始の過ごし方について家族にお聞きし、兄弟で来訪していただいたり、入居者と外食されたり、入居者が帰宅してお茶を飲み2時間位で帰るなどしている。各ユニットの事務室の入り口には意見・苦情をいただくための掲示がされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し区費を払い、管理者は区の行事に参加して交流を深めている。区の清掃にも参加している。地域のお祭りでは獅子舞いがホームで行われる。小学生、幼稚園児の来訪もある。運営推進会議の委員の方からのお誘いもいただき、地域への広がりが大いに見られる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続のための柔軟な支援を事業所の理念としている。そのため、一階のデイサービスの通所者でグループホームの入居を希望した方を優先している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時、一ヶ月に1回の全体会議の場で理念に必ず触れ、確認しあうようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し区費を払い、管理者は区の行事に参加し交流を深めている。区の清掃にも参加している。区長も協力的で来訪者の受け入れ体制も常に万全である。地域のお祭りではお獅子が各ユニットで舞う。小学校、幼稚園との交流もある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全職員で行われた。結果、毎日の仕事の中で「このようにして良かったね…」、「意外と良いんじゃない…」などと再確認したり、入居者の頑張ろうとする気持ち、体力・機能を損ねたのではないかと反省する一面もあった。		

グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在区長、民生委員、安心相談員、市介護保険課職員、入居者、家族が参加してホームの様子や防災などについて有意義な話し合いをしている。地元の委員から「家の花が咲いたから見に来てください」などのお誘いも受ける。次回には防災にも関係する青年団の方の出席も予定している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年3月管理者、職員の大掛かりな異動と入居者の問題が重なり、管理者が市の介護保険課に悩みの相談に通い、市からホームへの来訪もあり貴重なアドバイスを受けた。現在も市との連携はなされている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	地域密着型サービスとなり多くの家族が一週間に一度は訪ねている。見えない時は電話で健康状態を管理者が報告している。金銭管理はお金を頂いた時にサインをしていただいている。12月には申告のため、コピーしたものを送るようにしている。	○	担当の職員から日頃の入居者の状況などのコメントと金銭出納帳の写しを小刻みに送られることを望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年末、年始の過ごし方を手紙でお聞きし、入居者の兄弟が来訪し、外食されたり、入居者が帰宅してお茶を飲み2時間位で帰るなどしている。各ユニットの事務室の入り口にはいつでも意見、苦情を受け付けることを掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年3月の管理者・職員の異動時にも新しく地域の職員が3人配置され、新任職員の性格も明るかったのでさしたる混乱もなく、入居者も受け入れてくれた。		

グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「管理者研修」、「実践者研修」などで帰宅願望の対応の仕方など段階に応じて学んでいる。上司から「この研修受けてみてはどうですか…」と資格取得も含め勧められる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループホーム会議に参加し、そこで知り合った他市町村のグループホームを管理者・計画担当者が見学した。職員が同業のグループホームを見学したり交流することでサービスの質の向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居で一週間位寝泊まりし入居を決めるようにしている。そのまま入居の方もおられる。症状の進んでいない方には一緒に生活できるか尋ねるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が気分で言葉を荒げると「まあまあ、おさえて、おさえて」とのアドバイスを入居者からもらい、「すみません、短気な嫁で」と冗談で返しながら支えあう関係を築いている。		

グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり個性が異なるので「菜園でキュウリを採りたい」、「散歩したい」等の希望に沿えるようにしている。入居者の誕生日にはどうしたいか聞き、デパートで買い物をし、食事をして帰るなど本人本位の過ごし方をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で本人や家族の思いや意見を聞き、フロア会議・スタッフ会議などで本人本位の介護計画が作成されている。出来た介護計画は家族に確認をいただきサインをいただくようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをし職員全員で共有している。状態が変り緊急を要する時は家族も参加し、必要に応じて医師からの意見も伺い、現状に即した介護計画に作り変えている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望により美容院や歯科への送迎、付き添いをしている。デパートでの買い物、食事などにも同行している。		



グループホームまゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も本人、家族の意向にそっている。協力医療機関も月二回往診に訪れてくれ、インフルエンザの注射も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合のあり方については家族から意見・希望を聞き、一覧表を作成し即対応出来るようになっている。協力医療機関とも蜜に話し合い連携を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。日々の関わり方も目立たず、さりげない言葉がけに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日にしたいことを把握し楽しく暮らせるよう支援している。習い事や趣味を持つ入居者には時々発表の場を設けている。普段曲がった腰もシャンとして踊る入居者の姿に感動を覚えた。		

グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日の昼食に南瓜のサラダがでた。冬至には何で南瓜を食べるのか、昔の料理の方法などで話題が弾み、長野市の昔の賑わいまで話が進んだ。箸を休める職員に入居者が「ほらほら、食べて、食べて」と南瓜をすすめる姿が微笑ましかった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能だが、入居者の半分ずつ2日にわたって入浴している。朝の入浴を希望する入居者もいる。入浴を拒否する方には「明日美容院へ行く」、「お出かけする」などと各入居者に合わせ言葉がけをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が何を得意としているか、何が出来るかを把握して生き甲斐につなげるよう支援している。折り紙の好きな入居者による雪の結晶が居間の壁に貼られ、クリスマスの飾りと調和していた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩するよう心がけている。近くの銀行の駐車場、稲荷神社、桜の花の頃は市の名所や公園、夏は繁華街の七夕祭り等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の設計上ドアを開けるとすぐエレベーターとなっている。マットで感知するチャイムの設置も法人本部にお願いしている。日により鍵をかけることもあるが、かけることについては家族に承諾を得ている。		

グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春、秋二回防災訓練が行われている。最近行なわれた訓練で管理者は煙の怖さを体験した。3月行なわれる訓練には夜間を想定し、近隣の人の協力も得て行いたい意向である。	○	あらゆる場面を想定し、体で覚えた行動が万が一の場合に役立つよう継続的に実施されることを望みます。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望により刻み食も行われている。水分摂取にも心がけている。入浴後は入居者も希望するので牛乳を飲んでいる。時には栄養士によるアドバイスをいただくよう希望します。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはクリスマス前で煌びやかではないが飾りつけが行なわれている。壁には入居者の折り紙の雪の結晶が飾られている。2ユニットによるクリスマス会には交流のある幼稚園児の賛美歌が歌われた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	習い事で使われた華やかな金銀の扇が飾られた居室、コンパクトな仏壇や位牌が置かれている居室、お孫さんとの写真を飾っている入居者など、心が落ち着く、各入居者思いの居室作りがされている。		

※  は、重点項目。